



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

《東日》
國花萬葉記

和泉 ○五畿内也今國之内

一 郡名 田穀 知乃高

二 諸御城主 御所城 御系國 御所城 御系國

三 堺町御奉行 附 兵力同心免

四 堺國 八同古産名品 附 法名二 法高人

五 古兼位官名士 五 神社靈廟 古兼

六 旧跡 山川古地名不 古兼佛器

七 名産殊物 諸方海陸道法

卷之第六

ル 3
3671
13



門 3
號 3671
卷 13



難波九綱目 七之卷

和泉之部 目錄

和泉國 泉州

岸和因御城主 一 邊城御生堂傳

尚公治方 一 傍政所 一 赤綠

西与方所同心 一 傍熱年考 一 熱代藏

南畑熱年考 一 畑熱年考 一 糸別封人教年考

浦孫 一 傍大後考 一 大和川

日 傍 一 新堀川 一 石堤

波 一 傍英和教

▲土產 一 高之部

桑 座 一 後絶師 一 月基師

同金具師 一 采稻場所 一 伽羅羅香同座

傍務藏座 一 同方以傍考 一 吉子

切加師 一 傍 一 所免考

傍本師 一 同考 一 傍考 一 生考 一 同考

傍考年考 一 古子 一 考年考 一 古考年考

三傍考亦 一 考考 一 考考

難波九綱目

▲古來仕官

三好友保一松井友剛一松山新助
小西如信一松山新助一木戸他左

▲泉及國中神社

一大多神社一猿豆社 一大多社号
一猿豆社号一神の文 一三村文

一犬神一今他每也文 一今他每也社

一甲の社一宗院 一編石社

一荒井一就守文 一仁酒天宮

田出井山一肉者終墓

▲傍古跡

九段小橋一九本松 一修一塔

一坂野一田植 一七反溪

一寺中堂一勢五塚 一神津里

一玉横所一戸立所 一神田所一聖徳太子

一岡口所一古道 一神狐の寺

一海風台一多我孫大馬所 一白井の井

一海合寺一井 一寺頂

▲山川古跡之類

一横山一あし山 一和泉の池

一高の森一かけの浦 一さういの浦

一高師の溪一仲休の溪 一かけいの

一石一うの里 一志のの里

一石一林菜店 一牡丹石

一宗松一乃存堂海 一干宗易一打休

一宗松一乃存堂海 一商裁地

一石一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

一寺一乃存堂海 一商裁地

天田寺 一尊 慈寺 一全佛 寺

▲泉川 名品

二体 鶴鳥 一藤 紙 一殺 泡

一古 糸 糸 一古 齒 庵 丁 一寺 方 庵 丁

一甲 折 紙 紙 一白 粉 一夫 弁 糸 振

一塗 木 履 一雪 端 一社 松 丸

一鬼 虫 候 一紅 糸 豆 磨 一糸 灸

一櫻 糸 結 一全 糸 一榜 豆 慶

一南 竹 茶 抄 一節 鼓 紙 一古 竹 袴

一表 皇 師 西 吹 一難 災 粟 細 工 一加 賀 四 節

一角 一垣 一漆 壺 燒 垣 一天 川 子 紙

一沼 月 浦 一春 和 田 子 紙 一塔 紙 入 及 法

▲改正増補之部

一武 務 候 之 紙 方 一湯 方 候 同 在 法 之 紙

一和 年 考 一同 公 年 考 一紅 糸 考 一糸 候 出 紙

一糸 一和 掛 一糸 一糸 出 用 紙 矣 和

一綿 沖 合 紙 一茶 經 操 之 一糸 同 在

一綿 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在

一糸 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在

一糸 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在 一糸 同 在

目 本

國花分明集 卷之五

五歳内 又之國之内

和泉國 泉 下後三歌 南の一目本

▲山々びび海々いごと 故小五穀冷温

の帯て啼いよかけり 國度くく

三ツウカイキヨヘツ

習禮 矣 麗 之 矣 一 文 下 國 之

フホトリ ニ子 和泉

大鳥 日報 和泉

●南郡 泉 歌 有 七 二 歌 の 正

和泉國

泉 下後三歌 南の一目本

大鳥 日報 和泉

●南郡 泉 歌 有 七 二 歌 の 正

知り多 指三万八千七百九十石

▲娘河内の國をりしと

元正天皇 天智元年 小割り

吉野監と改めし國とせしと

右 旧事記

▲同二年四月 河内守 大寺月

指 和名は二郡を割りて

和名の國を置しり

右 新撰國史

岸和田御城主

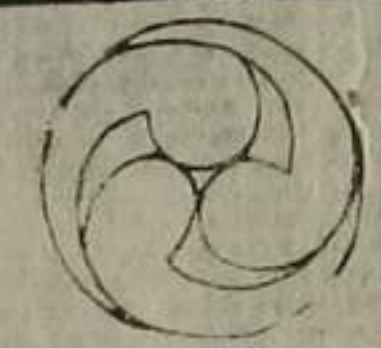
系々十九代り 和名六百四十

國部内膳正長和

又百三ふる

河内守 國部内膳正長和

山上三ふるり 申かきとて 下ふり 系々 和名 六角下ふり 大坂丁目



二ふりともてりしや	和名	和名	和名
和名	和名	和名	和名
和名	和名	和名	和名
和名	和名	和名	和名

國部氏御家系

岡部次郎右衛門正綱長又

藤原長盛

長和 内膳正

寛政十七ヨリ 國部氏

伯太御城主

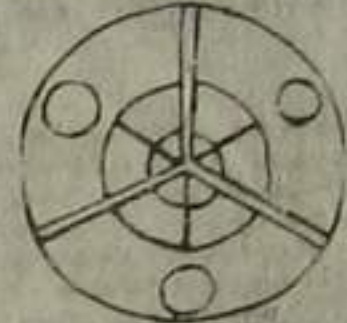
渡邊備中守 渡邊

和名 綱川中務女浦妹

小殿 富士 中里 直 長坂 佐々木



〇辨皮九七 泉 四



河内室	河内室	河内室	河内室
河内室	河内室	河内室	河内室
河内室	河内室	河内室	河内室
河内室	河内室	河内室	河内室

渡邊氏河家系

嵯峨源氏

渡邊源次細光二代

源守綱

半藏 忠右三門

早より河内領... 叔代あり... 武蔵と云ふ

繫綱 備中守

寛文年中ヨリ渡邊氏以之

〇場御奉行

御方十 祈 御同心 又十人

由洞甲斐守景山

山形九右衛門

天保七申四月ヨリ

山形九右衛門

御用日 二日七日十三日十八日廿五日廿九日

前録堀代々御町奉行

慶長五ヨリ成瀬隼人正同十八ヨリ朝倉藤十郎
同十九ヨリサ之山小兵衛元和元ヨリ長谷川
佐兵衛此代棟地割有之繪圖渡同立ヨリ
喜多見若狭守寛永五ヨリ嶋田越後守
大坂ヨリ掛持同六ヨリ水野河内守同十ヨリ
石河土佐守慶安四迄三テ号主奇下兼徳元ヨリ
子息石河土佐守此時与力百五十五被仰付 八八 御目此
此時御与力田中三太夫小川安兵衛松本与五至門戸
川助太夫佐藤佐左門羽津治良兵衛計村六至門
寺尾治左門前田甚左門多田兵太夫寛文九ヨリ

水野伊与守天和元ヨリ稻垣淡路守元禄元ヨリ
 佐久同丹後守同九ヨリ大坂市支配被仰付松平
 全番頭永見甲斐守保田兼濃守中山半左門
 大田善太夫松野河内守右大坂塙奉行ナリ
 同十六ヨリ天野傳四郎此時与力六騎同心四十人成
 宝永三ヨリ兼山甲斐守此時又与力四人同心十人願
 有与力十人同心五十人上成正徳元ヨリ淺野壹岐守享
 保十四ヨリ水野信濃守寛保三ヨリ山田肥後守延享四
 ヲ糺生安房守當所唐物所吟味有暫之間所在
 番有之出部久大郎宝曆六ヨリ池田筑後守宝曆八ヨリ
 小笠原伊豆守同九ヨリ坂部飛騨守後土佐守上成
 出首御奉行石野筑前守

○同御組共力流 十騎

	辻村治良右衛門		牧原孫左衛門
	伊豆良右衛門		倉橋直之丞
	戸田興次郎		上條廣之助
	一ノ瀬一右衛門		渡辺又八郎

○同御組同心流 五十人

東	中	西
菅野元治 天野孫三 秋山友三 吉田良右 久米良右 田色良右 宅間良右 村上良右 李永良右 上村良右 中村良右 肥田良右 九段良右 小宮良右 篠原良右 古川良右 篠原良右 渡辺良右	九段孫三 服部孫三 金井孫三 山田孫三 中山孫三 中田孫三 寺島孫三 小田孫三 山田孫三 別所孫三 本田孫三 小宮孫三 羽田孫三 市川孫三 山田孫三 平田孫三 小宮孫三 河村孫三	菅野元治 天野孫三 秋山友三 吉田良右 久米良右 田色良右 宅間良右 村上良右 李永良右 上村良右 中村良右 肥田良右 九段良右 小宮良右 篠原良右 古川良右 篠原良右 渡辺良右

小高新 寺
小慈方 寺
小宮 寺
小田 寺

堤惣年寄 兼惣代職事

南組惣年寄 惣代職事

川橋町 寺
金屋信左
河上屋
日敷代 武殿左
日敷代 河上屋
日敷代 河上屋

北組惣年寄 惣代職事

車い所 慶屋左九郎
三浦
日敷代 河上屋
日敷代 河上屋

系刻年寄

南組以 平野仁左
北組以 谷 長左
小高 惣年寄 惣代職事

白系刻年寄

百丸 系
百丸 稻
百丸 長
惣合入百丸

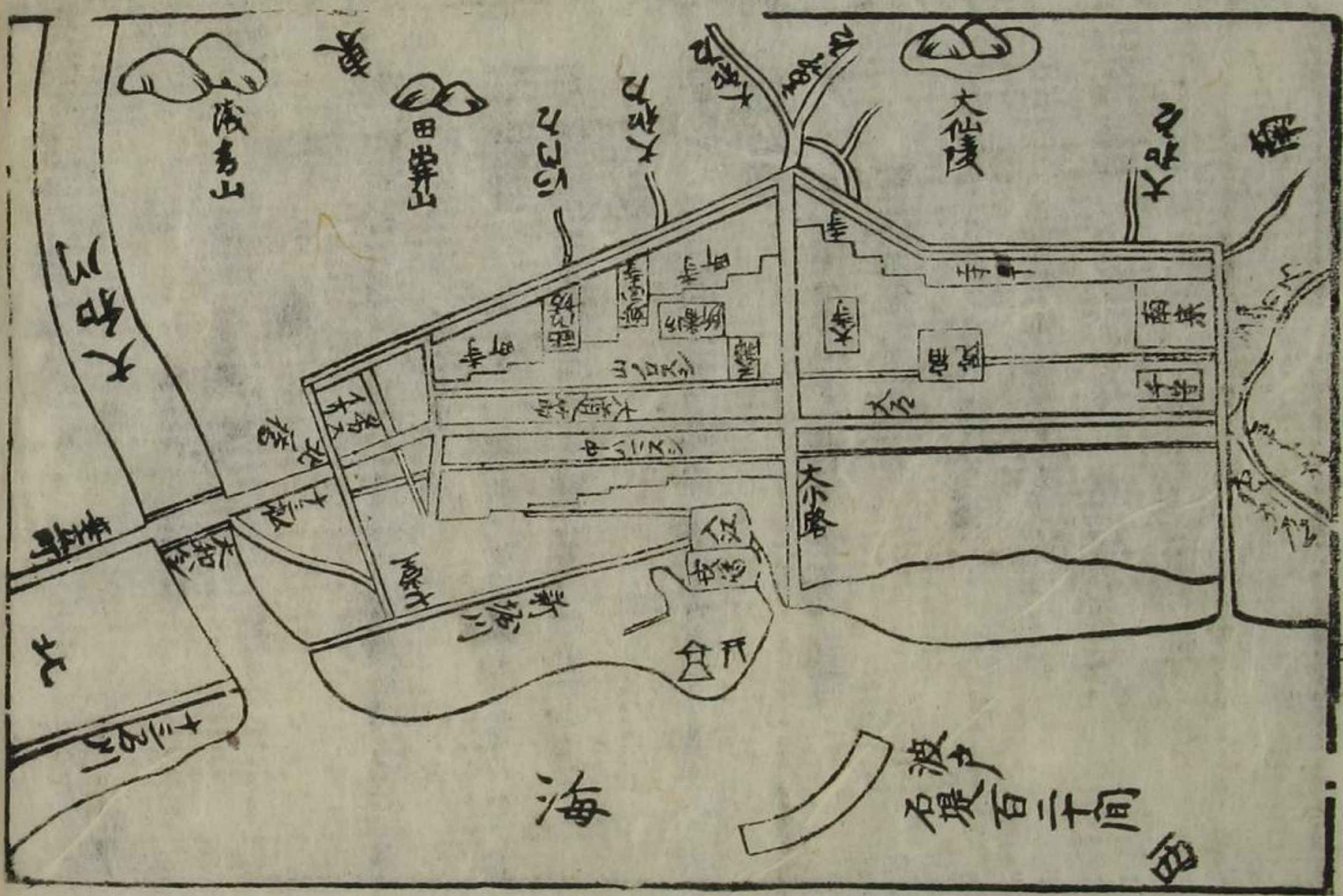
堀大圖

堀と云ふ所の門大小路より北へ移す所や南へ和泉
此所やとて堀と云
東西にばくむ所や、西へ海を移す所
此所の外へ堀門をて掘とす 南組惣代と云
て二所也

惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁
惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁

惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁
惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁

惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁
惣合 三百八十丁 横丁合 六十丁



寺尾合石八指七ヶ寺
 天台宗 二ヶ寺 真言宗 指四ヶ寺
 禅宗 指一ヶ寺 浄土宗 七指ヶ寺
 法苑宗 指指ヶ寺 一向宗 指指ヶ寺
 時宗 一ヶ寺 大余保宗 式ヶ寺

大和川 同前

大和川中ノ流ニ及ル川ヲ凡ハ大和川也
 山ノ下ノ河内郡ヨリ山ノ方ニ流ルノ最
 流れて和泉村ノ東ニ至ル又和泉村ノ方ニ
 石川ハ大川ニ合テ八尾又室寺村ノ方ニ流
 三身田村ヲ沖村トシテ大坂 陣城ノ東ニ利
 束橋ノ下ニ流渡川ニ合テ大川ニ入リシメ元禄
 指七年川遠ニシテ和泉村ノ東ニ流レテ
 成者山ノ別ノ坊ノ水ノ入口ニ至ル中ノ河ノ入ヤ
 西ニ至リテ流還ニ指ヶ寺トシテ大和橋ト云也
 川幅百貳拾間 堤馬路三間
 橋長サ百貳拾間

組ハ大和川ハ何長クハ指ヶ寺ニ流レテ凡ハ
 指ヶ寺ノ神ニシテ其ノ方ニ至ル世傳指ヶ寺
 和泉ノ神ニシテ和泉ノ神ニ入リテ

向水

新堀川

堺城の近辺に海軍へ築かしたる橋ありしや
近年築洲の事ありて入海も甚多し其の
これよりて延享元年 旨令ありて大和川
より新堀川と改稱し其の作有年平田五郎
波田光と名ありて舟を利していふく、船多の
地と名あり 其の丈出はあり

石堤波戸

堺の海に舟より入大浦とて海防の務船は遠
征するに及ぶも舟も舟りよか...
享保末年に改修ありて西海の大浪とせり
石堤波戸とありて西海の大浪とせり
もいふては地も舟りよの務舟は波のこりり
よりいふとありのこりりよとあり

土産 工高之部

朱座

名在町大石 小田助三郎

鉄炮師

板並 板並 板並 板並 板並 板並 板並 板並 板並 板並

同金具師

田中仁之助 田中仁之助 田中仁之助 田中仁之助 田中仁之助

同金具師

金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋 金物屋

米相場所

米相場請負人 山本茂長 請負人 向金中 笑叔 百人

伽羅沉香問屋

伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋 伽羅沉香問屋

日 万石人 日 月女 松平孫之入

生奥同屋 每朝市南濱

久吉古石の 枳吸長之入
赤尾新右衛門 向九石の
日 九石の 古石古石之入
廿吉地長右衛門 池美即之入
納 全石の 久吉之入
十八石九之入 酒登古之入

山南子中實二百石十割余以外小店所敷地

質屋年寄 仲間百六十五割

古石屋年寄 古石屋年寄

美村中右衛門 向九石八 枳代中津長之入

吉通具屋年寄 仲間二百六十割

海了全利右衛門 向九石八 枳代井上長之入

馬借 今所 向九石八 枳代井上長之入

改正増補之部

戎橋渡方石法掛り

御番所 御役人 御下役 枳代井上長之入
辻村長右衛門 古石屋年寄
中村長右衛門 向九石八

石錢所勘定方

谷口依市 寺井長八 枳代井上長之入
小伎 枳代井上長之入 枳代井上長之入

渡方松岡全法舟

同全百石枳掛 肉 奥同全百一割
田兼於同全七割 万同全百九二割

廻船三十六艘

内二十艘系系船十去艘是船揚屋

渡海船三十艘 系船百艘

通船二十八艘 小船二十艘 渡船百八十

船年寄

全全全全全 全全全全全

同全全全全 同全全全全

枳代井上長之入 枳代井上長之入

廻船年番 渡海船組以

年寄 渡海船組以

小西長右衛門 枳代井上長之入

言敷多下 同全全全全

茶屋年行司

大は十之入 枳代井上長之入

向九石八 枳代井上長之入

染紅組以

細登染布 小段 主人

小袋八丈 十二丈之

中月五丈之

燈籠堂 火燧

好井蔵之

▲我傳石法毒定場候方候所之毒判
之介濃船亦小船之由之船年物之配又

沖掛屋

為之伴之 為之之

河内和之

尾方八丈 目古地

京都所用海軍取

大一丈三舞

綿紐相場会所

海船や大三舞

業種掛之

益田治之 三三傳之

米 同 屋

松登色尾

源登和之 泉登三尾の

牛之登三寸

泉登平之 二儀や六之

綿問屋

菅登三寸

北原之 北山や尾古

小山之丈之

北園屋 紙登三寸之

池田和之

北原之 以外之有之

紀列泉列認問屋

去後清太の

いよや之 松登色尾

小刀登之

口之傳之 二儀や十尾の

于認問屋

松登色尾

日之長尾 日之丈之

主物問屋

山登や久之 八重九之

茶煙問屋

中賞九寸十折余

大和之

大和之 松口八丈の

造酒長積積酒屋

大和之

大和之 大和之

日之

日之 日之

細登

細登 細登

金登

金登 金登

経之

経之 経之

井登

井登 井登

諸布現物店

十一

少糖下 丸武百粒余

本綿葛藤皮 丸武百粒余

大小糖下 丸武百粒余

結糸物 丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

名茶類

中井胡九代八人

奇 焦九代十人

山田振出茶 代又十人

一丁丸用茶 代十六人

神功丸代

牛美香代

服茶代

助松や茶類

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

中井宗珠 山本宗益 河野南碩

日下氏

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

丸武百粒余

十二

書家

深海陶舟

儒者

中加驛川号寺

糸曲

本多勾當

藤著細文野郎

車中名ま土屋一樂

竹細工

あま丁 休庵

湊屋き

みかど村

大坂一雨張紙細工

上丁 谷善以

大坂寺の敷竹

九丁 員生一寺外
りく用ル

全別寺端

六丁 多勿

下 込

今市町

小口氏林 天波宮

別南天台宗 日光山之下

山門延暦寺末寺 社於武百正台

麻徒山 岩紫寺

法平茶王院 梅松院

塔以 吉祥院 常照院

此外如庄流下云云

三村 良

別高志云宗長中社社於八十石

法平明王院 遍照院

塔以 五大院 宝生院

虚室庵院 多聞院

此外如中坊中有

本山 廣普山妙國寺

日蓮宗寺於百九石

梅明院 吉祥院 宝塔院

坊 十条院 系立院 善照院

善就院 舜如院 空坊 二宇

本山 丹露山大經寺旭蓮社

兼宗宗當時降土夏遠流中社社於廣山
以寺領四十石

坊 永春庵 友梅軒
松見庵 琳香庵
雲終庵

十六ヶ寺所 兼宗寺
但一社三村
十八ヶ寺

神明文

▲巡見四ヶ寺
妙心寺 慈眼院 祥雲寺

三國山白泉寺	長云宗	古刹九十九
然具山南宗寺	祥宗	古刹百十二
布金山大安寺	日明	古刹百五
宿松山海會寺	日明	古刹百三
・禅通寺	淨土宗	古刹百六
法護山北田院	時宗	古刹百九
藤松山金光寺	時宗	古刹百九
勅定山引接寺	明宗	古刹百五
清澤山極樂寺	旭蓮社末元	古刹百五
光明院	長年	古刹百八
徑王寺	法華宗	古刹百六
願本寺	日明	古刹百七
指智寺	日明	古刹百四
信證院	西中親王御堂	寺刹百石

博野町丁山口南 神主 野口對子
牛頭天聖宮

博野外三ヶ建 別當 向泉寺
方違大明神 方違の所札高林分出

博野外三ヶ建 向泉寺
野子大神宮 我々健 離島 慈眼院

▲古塚

張崎岳土墓 古塚百三

牡丹苑老人墓 古塚百三

北向道陳岳土墓 妙法古三

蓮加上人 北所業位位七

三好周劍及墓 古塚百三

大内義江致承塚 中村村所跡

風平宮の墓 古塚百三

龍真山南宗寺

塔頭 海眼庵 集雲庵

寛永中 現住 中真

在申屋 心南庵

江聖宗天和尚 禅宗紫野大徳寺末寺

本源庵 法泉庵 宝光庵 浄心庵 系成庵

寺領百十石

▲名井之分

向井飲の井 海老井 新井井

赤井戸 赤井戸 妙光の井

歌岡堂井 新井戸 新井戸

永福の井 各湯水あり

一休和尚鳥の後写之跡高野所

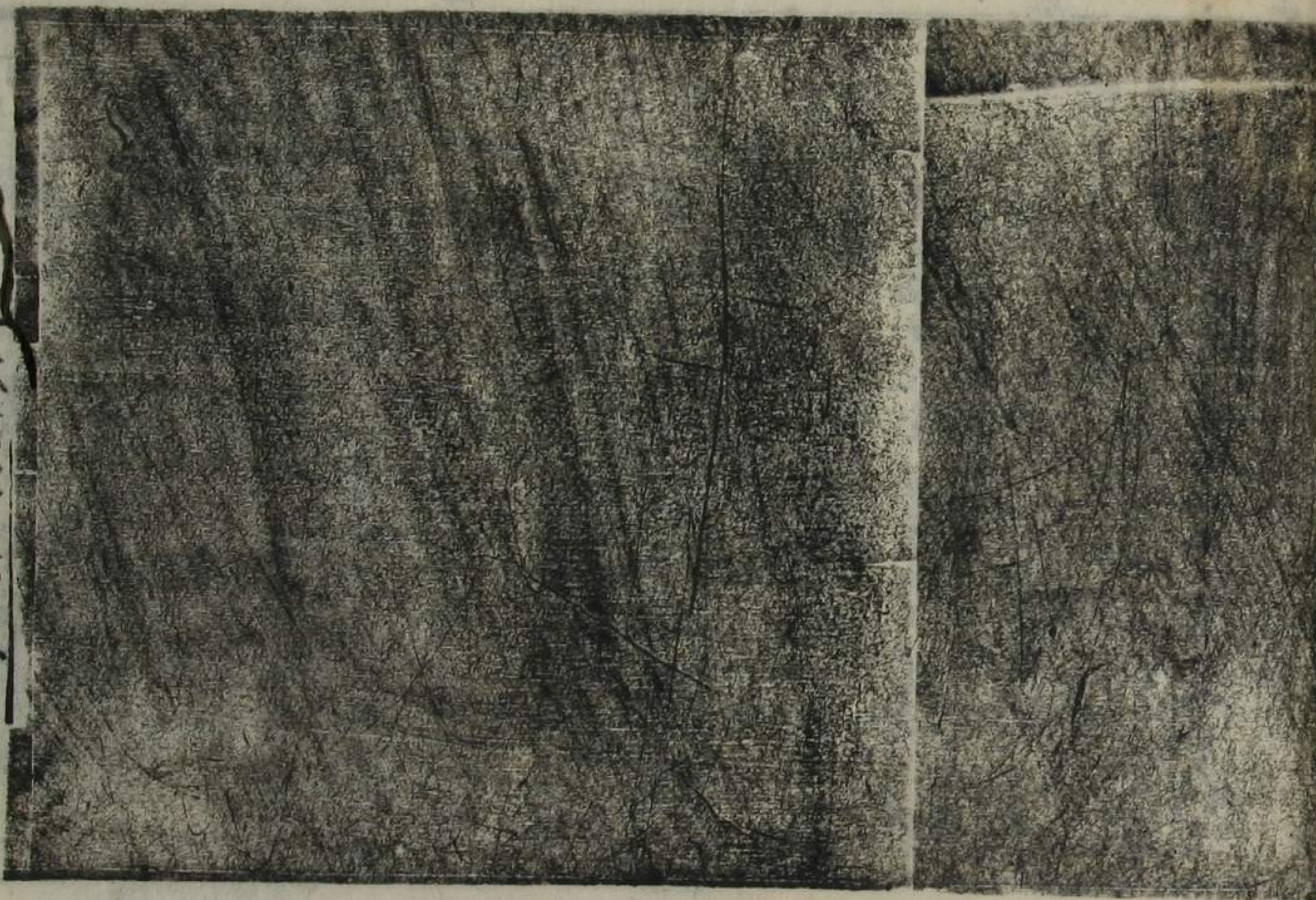
一休和尚鳥の跡所あり一甲斐所中より伝来後

以市一中漢路より傳来の所子屋元禄の頃此處

今高野一休和尚の心持鳥の跡所古代の

名井を掘りて是故撰写す別下此之跡所

画の写し加へて市十中漢高柳店兼後堂之



泉十六ヶ所

芝居

芝居 今川三郎
名代泉屋吉十郎

北女所

北女所 十二羽
右女 二女下 封女を女
左女 二女下 封女を女

左女 二女下 封女を女
余八條之

右妻 仕官

右妻 仕官
三好 三好
三好 三好
三好 三好

三好 三好
三好 三好
三好 三好

三好 三好
三好 三好
三好 三好

三好 三好
三好 三好
三好 三好

松井友雨法師

松井友雨法師
松井友雨法師
松井友雨法師

松山新助

松山新助
松山新助
松山新助

小西如信

小西如信
小西如信
小西如信

小西如信
小西如信
小西如信

て如傳とあり

▲小西松澤守形長 小西如傳が自書
あり右圖へ小姓の出勢切五郎と稱す
也とあるは肥後國とありて守形
の城主とあり

▲本戸他志事 小西松澤守形の
家系あり記藤原小五郎とあり右
段小文ありと記藤原とありと子孫
今小西松澤小五郎とあり

▲右ノ教軍ハ其ノ標シ津小松
切名種名と選セリと云乃文也
書おけり今之のわらわとあり

▲泉列國中神社

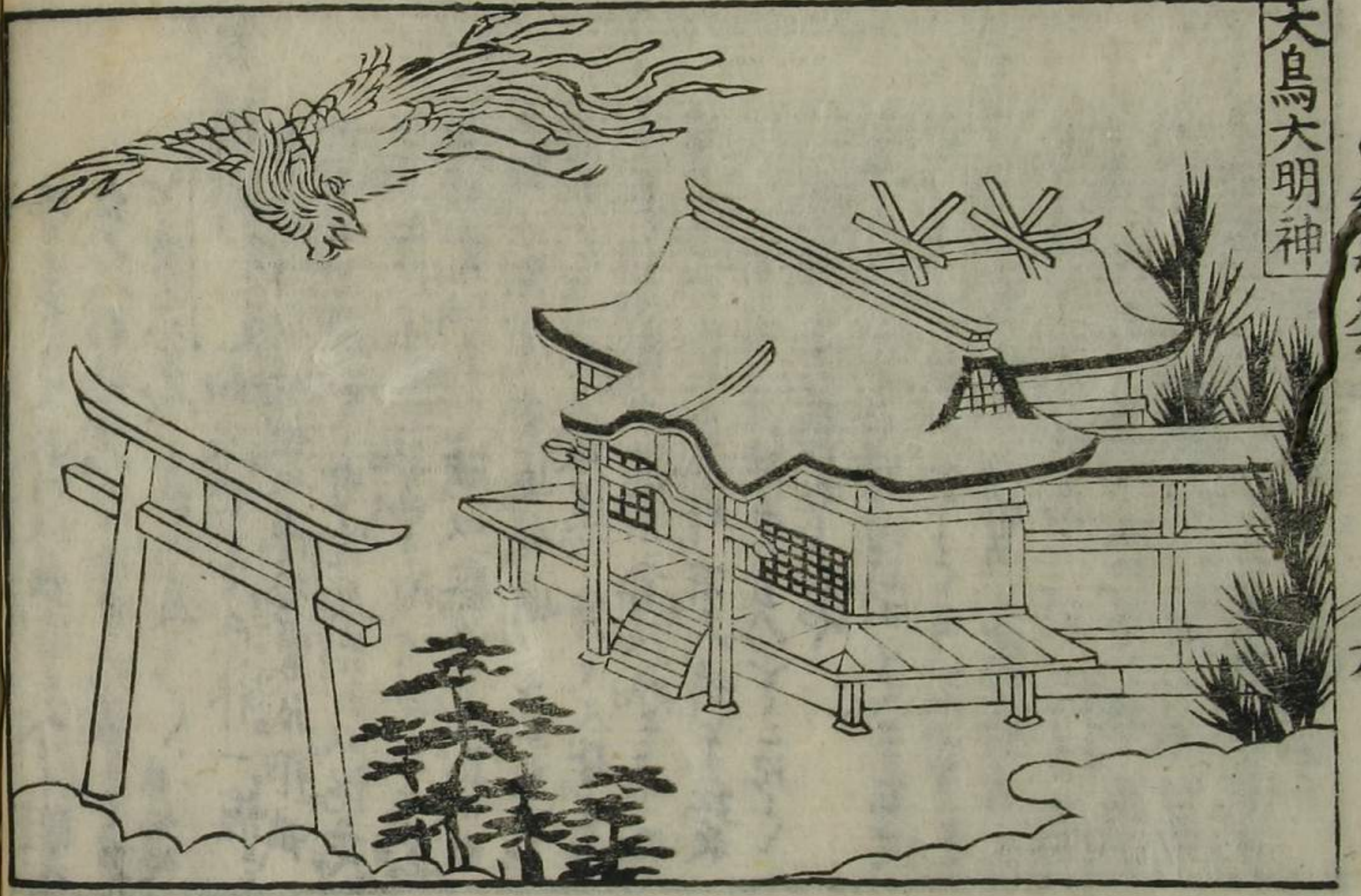
大鳥神社

一言祀ふ云 月本武王の墓也
一云とあり 於墓所ニ青白園と
ありとあり 飛鳥とあり 天照左社乃何
の事とあり 貞觀元年正月廿七日後位下 神階記
社記 茲乃人の心とありて社も
く又公も祀りてとあり社も祀り

蟻通社

和泉郡 蟻通社 一
昔奈津何世也 唐の代に
緒士曲玉環と下内通且若云
此玉環人不知所居于何有
取蟻之細糸を以て蟻を環
入蟻之圃密香通得通入
以其系所蟻玉環還于度
本國人其買或還不肯取
進至大位位なる為社有
告云 蟻玉環曲玉環の
ありてとあり 紀列あり
とあり 了社乃生也とあり
いふ社ありとあり 又幣帛
とあり 蟻通の社ありとあり
て社ありとあり かねてあり

天鳥大明神



蟻通之社



神の宮

此の宮は、天照皇太子神武天皇の御宇に
中ノ天照皇太子神武天皇の御宇に
日大の神を以て任勢月外と一所小
毎年の九月十日若十六日祭礼とし
此の町を以て神の町と云ふ六月後小
任吉の神楽場浦へ此の事より後す
此の神の宮を門戸と云ふは、他も
入り此の神の宮に於て世傳ふ
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
此の神の宮の神地中、此の神の宮

三村宮

此の宮は、天照皇太子神武天皇の御宇に
中ノ天照皇太子神武天皇の御宇に
日大の神を以て任勢月外と一所小
毎年の九月十日若十六日祭礼とし
此の町を以て神の町と云ふ六月後小
任吉の神楽場浦へ此の事より後す
此の神の宮を門戸と云ふは、他も
入り此の神の宮に於て世傳ふ
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
此の神の宮の神地中、此の神の宮

此の宮は、天照皇太子神武天皇の御宇に
中ノ天照皇太子神武天皇の御宇に
日大の神を以て任勢月外と一所小
毎年の九月十日若十六日祭礼とし
此の町を以て神の町と云ふ六月後小
任吉の神楽場浦へ此の事より後す
此の神の宮を門戸と云ふは、他も
入り此の神の宮に於て世傳ふ
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
と云ふは、此の神の宮に於て世傳ふ
此の神の宮の神地中、此の神の宮
此の神の宮の神地中、此の神の宮

天神宮

社領式百石

大倉天神の社と云

神主 田所修理

別當天台 常樂寺

堺乃瀨戸の南の庄の泉列ありてこの
庄の傍列の内は故小堺と云り此社との
聖宮の菱葉相本宰の福ありて自ら
此社七徳と彫刻ありて一は延喜年
申すは深しりあるせうのと民衆の御不
具相以て擲して法人湯作のたて毎
一社徳也まゝおかやましく社以の光
後之れ足さずとて一りお小町矢の夫
ろくく社敷とくく高きとありて
ひりうた社敷びありて行の居三年
ふおの庄氏子として造替是興あり
張りたる園秀吉公より此處家おと
と此庄中社於退治あり本社末社
金堂玉堂茂末等あり乃具座之
とくく此をすお及宗社に天台乃
法派ありて敷山小庵あり

今池弁文天

縁通寺とのあり

分建大の社

分建大の社 社切里辰三韓と云
一由故陣乃後小浦小ありあり
恒吉の社神皇居小鏡一あり其恒
吉の國小鏡座をへてくく此鏡は
能く分建乃政事とありあり此地
より今乃恒吉の鏡座より一あり
まゝ此鏡乃地とありて一あり
されを造他首途よりあり此地は
とありて地小ありと鏡小ありと
分建乃鏡と云くありて一あり
此鏡乃乃時ありてありて天下の建
乃とありて毎年八月晦日のひまの祭
礼なり此日云祭りて賑へられと
信り常乃日及別當向衆とあり

帳記宮 付 延徳

此浦の平林の森

中より一り此宮文四年八月八日小鏡
鏡ありて一乃橋浦出せり同十一月十三
日小又海中より大ありと云い酒小上
より一り此宮文二年橋浦八葉板乃
厚と云くありて一乃橋浦と云

之れは梅田の神也之れと云ふ之れ
 月院別當於辨法中一書に載加於
 法に之れと云ふ之れと云ふ之れと云ふ
 以候乃其は浦乃海中の石戒の
 事と云ふ之れと云ふ之れと云ふ之れ
 龜乃出候事也之れと云ふ之れと云ふ
 乃其と云ふ之れと云ふ之れと云ふ
 同十二月朔日云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事
 てゆり之れが事也大由波濤起りて
 海と云ふ之れと云ふ之れと云ふ之れ
 乃其と云ふ之れと云ふ之れと云ふ
 神於此也之れと云ふ之れと云ふ之れ
 橋三尺厚さ一尺七寸と云ふ之れと
 云々して之れと云ふ之れと云ふ之れ
 不出候事也之れと云ふ之れと云ふ
 事也とのりけり云々して石戒の事
 抱於此也之れと云ふ之れと云ふ之れ
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事

芝居

芝居 延慶六年乃法也之所小
 四年乃其は庚申十月廿三日夜
 又其の事也之れと云ふ之れと云ふ
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事

祝音

祝音 延慶六年乃法也之所小
 四年乃其は庚申十月廿三日夜
 又其の事也之れと云ふ之れと云ふ
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事

甲

甲 延慶六年乃法也之所小
 四年乃其は庚申十月廿三日夜
 又其の事也之れと云ふ之れと云ふ
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事
 事也とのりけり云々して石戒の事

長徳のころしつと云々
家康の山内右衛門尉の御小五郎の御
堂の御甲社と云々

高院

六月晦日乃小松小社
後下之山乃小三社
有ハ奥の山と云々
小松乃日十一日
登小松

編荷社

送元和年中
高院殿
公文乃

荒

御徳の石林乃荒
夫多の
池中
大の

乳守宮

乳乃
新
小乳
ら

仁道

乃境
實乃
務列
を
と
所
田
又

田出井山

鬼道之より陸奥七代徳宗乃中
鬼乃雅命子孫の流傳と天皇に傳り
路の山城國鬼道よりいづれより
自に死すべしと即ちいづれ小葬事
と申傳人傳り或はいづれと推す天皇乃
陸奥より支那よりと云ふ事あり
武内宿禰墓 大仙陵より神小あり三
國山より平末乃方し世人長城山と云
武内宿禰天皇より後神天皇より
六朝小住より長あり

泉列塚古跡

定と云ふ開村本戸村(小庄と云
井領村中谷村原村(三村と云

五穀小帳 九年秋 西征神軍出陣
乃由河津取九穀ふ、は淡浦小あがせ
かみ此取とけ所乃松九ふつあさあ
不と神乃松と云り神乃乃向入友の居
今旭蓮社乃月徳也七社の外小別と
九中松崎神と云、社後ひきき松小
石宿院乃色と云、九七九穀小帳と云し
神乃松村乃南不表宿

飯 乃門かふるよれ神乃由神乃由神
神と云ふふ下と今據と稱す此神は
吉乃神小泉物と云、今此神本を
飯 乃門かふるよれ神乃由神乃由神

干珠 乃門かふるよれ神乃由神乃由神
表す満珠の恒吉廻席乃より玉出宿
と云地小埋と云ふ是小中く陰小表と云
乃云れ六月乃神興宿院乃飯此
小より乃六月干珠乃多り、五月の神興
と云出勝へり、乃より乃飯珠乃余と云
乃云、神乃の深秘一皮と云、乃

水田植筋所

例年恒吉宿院六月廿
八月小高雨津吉町乃在女事りて植筋
る、恒例なり、も備は是流ありと云
或核より飯小帳

七度演

或は七度演と云是いひかへ
七度演乃乃能と云、乃より又七度
乃能乃能なり是いひかへ、四天王の徳の
浦へわたり多り、乃より七度演と云、乃より
乃能乃能なり、今能乃能、乃より乃能
乃能乃能七度演乃能乃能乃能乃能

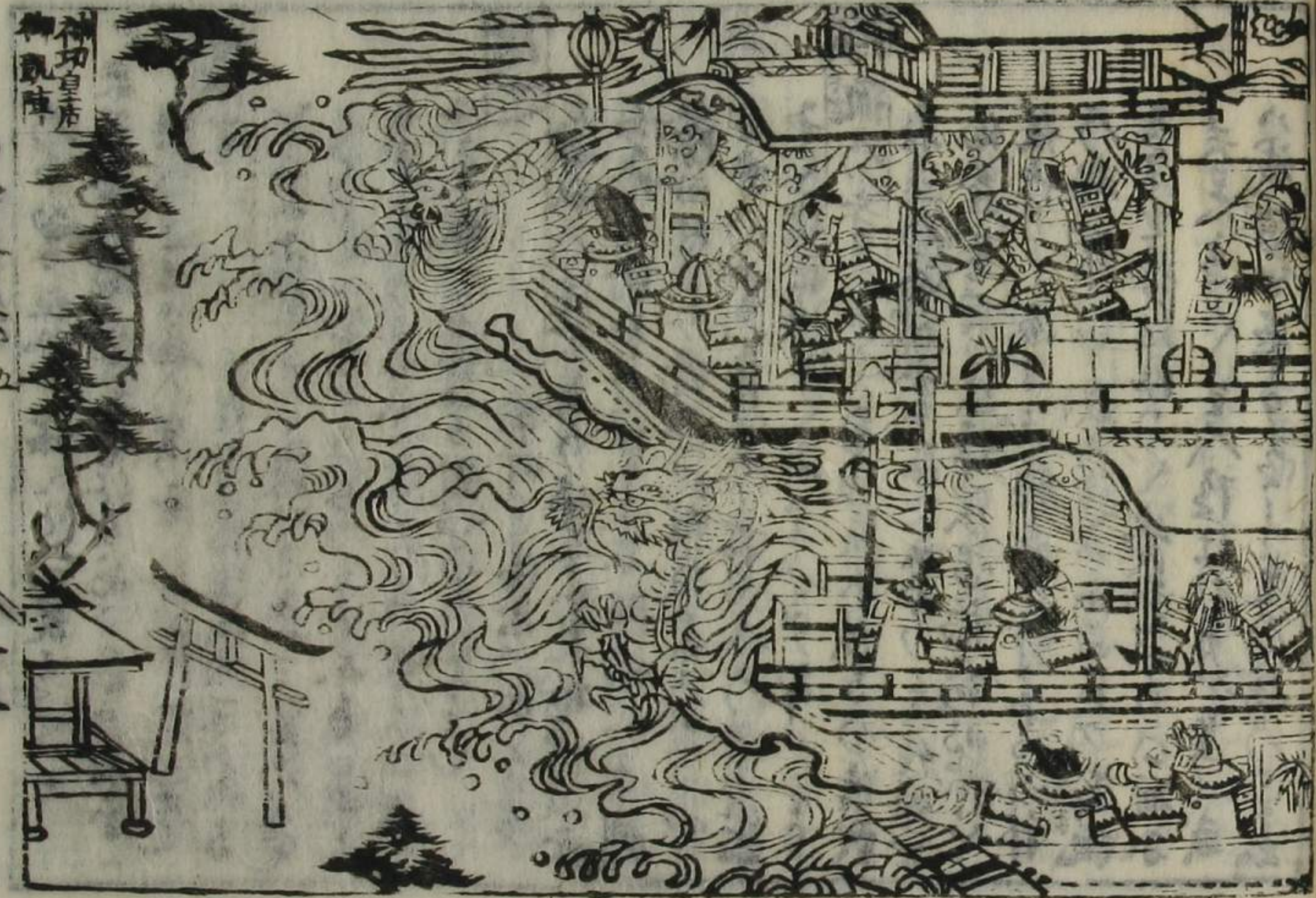
神皇正統記の末流の如く、
七度降る夜、
七月八日小踊大念佛あり河内西条
乃大会依り亦かまると上人有居り此所
乃三昧小教くそとどか之佛依とを
如へ一切聖具法界無縁の如小踊会
佛依行わり

多野堂
宿院町之大師の御
ありて多野より往來乃傍乃後とす
取小世人とれと多野堂と名つとす

勢至像
ありか多野八景善勢乃ありて教
海中よりありて世かありとて、
藤原朝にありてありとて

北澤里
採刈し名も住吉小あり
祀す奇も出せり此所の徳宗の燈
急くとありてありとて

玉振節
ありてありてありとて名も
藤原朝の老とありてありとて
ありてありとてありとてありとて
此所の世傳小も祀文か上



神功皇太后
御殿

乃くつり祖母の懐しき流るるは
泉の流るるの如く是に其のつらさを感ず
祖父母のつらさを流るるに其のつらさを
母のつらさを流るるに其のつらさを
とはお小松のつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを

乃くつり祖母の懐しき流るるは
泉の流るるの如く是に其のつらさを感ず
祖父母のつらさを流るるに其のつらさを
母のつらさを流るるに其のつらさを
とはお小松のつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを

乃くつり祖母の懐しき流るるは
泉の流るるの如く是に其のつらさを感ず
祖父母のつらさを流るるに其のつらさを
母のつらさを流るるに其のつらさを
とはお小松のつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを

乃くつり祖母の懐しき流るるは
泉の流るるの如く是に其のつらさを感ず
祖父母のつらさを流るるに其のつらさを
母のつらさを流るるに其のつらさを
とはお小松のつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを
とつらさを流るるに其のつらさを

大と安と云ふは、り希ハ旭蓮社乃古
事とあり、三ツツツ宿末は、三ツツツ其美乃、三ツツツ乃末
向呂あり、三ツツツ長之園も、三ツツツ乃末
儀と云ふは、三ツツツ入山先、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
終、三ツツツあり、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

市我 井大黒町

弘法六師乃初修く市町乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
又大黒町、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
又、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

白井 白井

白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
小阿加井、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

海會寺 井

首海、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
と、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
中乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

龍井 井

三帝と云ふは、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
万福、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

龍洞 井

と云、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

二白と云ふは、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
又、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末
白井乃、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末、三ツツツ乃末

▲泉列山川古記

横山 新六帖 元後

何ぞといふ煙ころ泉の枝の夜のゆくぬん
境涯各物し元小白炭一程とせし
程小云茶乃湯煙中乃又山炭より若乃
湯乃炭と云ふて白く煙て用ゆと云
は炭小なるを引ざりハ新乃炭も
あつらわと云ふなり

あつら山 又丹後小同名も

和泉乃山 泉の山極嘆ぬし様のはるはさかか
若乃山 若乃山 若乃山

志乃乃山 若乃山 若乃山

六帖 泉の山極嘆ぬし様のはるはさかか
若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

若乃山 若乃山 若乃山

和泉縣志 補遺 云々 一川と云ふは
 山小川居し人たて終く一乃其と
 下らく忘る人小合也と云ふ物言と
 言ふは小川内言と初なる其言の
 部也と入るに連るれば今も小社
 と言ひされり初合と云く終らざる
 ことり更其言もも言ひ合されりこ
 事記隠者おくるをりこ姓氏と云る
 人初 初初と云る言と一也と一也
 と名付く世人言ふ一也と一也也

持業店

持業店 一徳和為乃店といふ言
 あり阿佐吉乃社不備く西界一
 一に又八十斗乃社不備く西界一
 く言ひりく其言と云く物言と云く
 けり和為乃社不備く西界一
 思理と云く物言と云く物言と云く
 春て其言と云く其言と云く其言と云く
 ことりそ初初と云く初初と云く初初と云く
 らた初初と云く初初と云く初初と云く

牡丹花

牡丹花 本ハ枝原徳造信長
 彫小云牡丹花の具年親王乃重孫と
 云く其言と云く其言と云く其言と云く
 思くす又自く牡丹花と稱す人其
 志と云ひり其言と云く其言と云く其言と云く
 事と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 必と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 全と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 隠と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 云く其言と云く其言と云く其言と云く
 三也と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 泉也に枝原す大永七年丁未四月
 八日小川守ノ家八十五と云く

経橋

経橋 湯乃京近かり
 津神松町小川守信長武田勝頼守
 仲村と云く其言と云く其言と云く其言と云く
 和泉仲法無修乃社不備く西界一
 伝又初初と云く初初と云く初初と云く
 小泉也小川守信長武田勝頼守

日条戎堂乃（テウ）藤原小居位（ト）と居と大
系居と居つゝ和名をく（ト）和名一果居
士と居つゝ弘治元年乙卯十月廿九日
病歿す

乃陳元海

一 馳征町乃小向と云
亦乃先祖久恒所（ト）立世乃うり和名
乃陳心とひ（ト）南宗と云と建
立せり和名乃後系田令の和名
立乃乃近と云名と云と云

千宗易

乃号利徳 南乃庄今市町小
千と四郎と云ひ 人々乃陳和名乃
く天下乃和名乃和名世小か和名
後乃乃周秀乃言（ト）出これ乃和名
和名乃和名乃和名乃和名乃和名
和名乃和名乃和名乃和名乃和名

和名

牡丹花乃門乃和名
能書乃く和名乃和名乃和名乃和名
和名乃和名乃和名乃和名乃和名
和名乃和名乃和名乃和名乃和名
和名乃和名乃和名乃和名乃和名

乃隆達

一 元八月達宗乃和名

和名

和名

乃乃庄目乃和名

内乃許太系乃乃内乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名
乃乃和名乃和名乃和名乃和名

首截地蔵

首截地蔵乃石像乃石基
 其蓋乃他ありかの石想又上乃信小
 道堂乃内ふありく趣あり奇怪あり
 ある趣乃人とのゆきありく信生れん
 と截ありめとこれの神あり地蔵こ
 それより信付く今首截地蔵こ云
 信ありきり曲なり地蔵乃石形難も法
 ありきり信今小祝をさるる
 唱 家收乃信 首那 信乃信小細尼
 助方事と云町へ天宮乃物置小琉球
 小島島衆へ信り交縁三年七月の信物
 せりとも信あり乃代友石田木工次政信へ
 云集ふとく秀吉と上之奏す金幣焼
 干極治廣野香二走上より信札中上那
 物来乃云登又十由目ふけふの信持
 信ありめありすあり信あり信廣者小が
 信を干宗易と信く信乃信と信り
 と信代付の信と信一信の信と信れ
 中くも信りせと信出され信乃信
 乃人信代付の信と信六日信信信と信
 信乃信今信信り信と信秀吉と信入信
 上り信今信信り信と信信乃信と信



皇子カ上ノ首切地蔵



納屋助无衛門呂宋ヨリ歸朝

日乃中小そころく乃漁入とせり

一寺観 凡塚つきにせり

期嘉山文終と旭蓮社 与坂早石

有約才二主後村と夫也乃建三用山
智恵上人の遺業とて依る小寺より
窮小入く庵山蓮社乃宗林と信林
改名乃り旭蓮社と四つと書し小物
社号乃権興の二人立世の廣く河
一と白と慈養一和の強号一と
又宗雲薩院の号稱可歌一と
又阿弥院と稱と終りて一人と
慶安六年壬子七月廿七日公く九
多のぬ門院を月城とて三日寺
地神料に石の當代小寺の石
中蔵部あり是念仏長乃乃乃乃
法寺七社の神 又法門品乃乃
前小寺

三國山向泉寺

与坂早石

聖武天皇乃初創開基乃基基
かる寺と観音法寺祇園寺願天

正寺の建立乃初小阿伽并を初て
法泉とゆり取小向泉寺と号山寺
泉河橋乃小橋小三國山と
稱す別乃遍照光院と号す後小
三國橋地乃依置と永正年中小
火小の門とて後滅之に初る寺
門と法乃小橋可ひ乃乃乃乃
初考今於應徳より秀言乃乃乃
封田九十石と傳小法當代小
朱中教部たり

法護山悲田院

与坂早石

後奈良院天文年中 建志開基
能上人姓の源氏に列作と云乃
女善阿弥院と名を惠心乃云
能建院現乃具安小申く高寺乃
別号とて十乃直稱すとや又上
如く乞食民と惠と云と云
悲田院とて是代六十石乃乃
法當代より法朱中於蔵部
法寺觀音天 弘法大師の彫刻

法澤山極樂寺

与坂早石

同基行基がさ川に在り所跡は事
八尺の基乃長形あり漢城天皇勅
同をさく山号とてさく大徳堂とあり
ひりひり内小室と稱く像危各燈す
又法界引身乃墓所と傳小地産堂
ありと市町といひて是と對外小
板す所信衆もたははひそねこれり
いさ一向小石るとありと後寺門表
列長火小かまり中法堂心といひ
人中興一と秀言云より知れ世石と
取交はれ高代小石とておまむく
而兼下殿合あり

金巻

ち辰十九石

兼和年中乃築村とて中寺ハハ
浦乃海中より漁人乃細小せりて上
らせりふ業味とて名に御基乃を編さ
ぶらぶらす業者も数あるありしが
一方天名乃乃湯とありり後には和
乃法美とてより又高徳引橋と智
演上人小僧入あり未言しぬその
後指と傳ゆれと号せりこれあり門
取興無業すか言吳誌奇物あり

中比谷長云十九石乃系田と下より水
浦成小なり後由朱平敷命とひり
雲前小友あり後小松院乃由字小石
後と中よりとて帝統へるれりて植
さるふ木も志をさくしりもやせく
花乃のちも表へふりあり表帝此水
後ふ 此ひまや境乃浦乃後波乃
故乃松小のりへり
と由愛熱ありふりてりてりてり
乃後言乃由神小ありけりてりてり
感るる物系小由新由教とあり
りてりてりてりてりてりてりてり
小程ありてりてりてりてりてり
りてりてりてりてりてりてり
下りてりてりてりてりてり
りてりてりてりてりてり
尾と書つてりてりてり

龍興山南ふ寺

ち辰百拾石

後永長院弘治二年三好修理大長慶
刺達用山正光普通圓師大徳智
中興伏唐和尙あり六徳あり末流

上人源陽之がたる乃ちちち成此朱
平教命たり
右十四ヶ年小六并乃常承寺三村の
念仏寺と成く是と十六ヶ年とあり
先代より此處家小なりとあり
是より以て判りしよりいふに在り
言八百廿五ヶ年

娘國寺

古殿百廿五
此寺中教命のこ
永禄五年小建三開山日院傍西
建立乃檀主八徳常言とあり
念仏乃身とありいふに棟礎
一板ありとあり二間を可振なり二間二
寸板本方小十二ヶ年希代乃成り
聖天正十年八月小家康云此上迄
まじく之を成り成り

雙樹

外國院殿光徳寺依墓 三母
又法名龍音寺殿以嚴實休ト号

小御坊信院

西中教寺
古殿三百五

文昭本中御坊成り成り

開山上入り入世八新撰連如上人
信證院ト号と信傳
建立一利信院ト号一乃信
系信乃信院とあり昔乃中寺
聖徳太子あり是今に之乃信院
成り也今乃信院ハ乃信院
上人乃信院ト号とあり信院
小御坊ト号とあり信院
成り也今乃信院ハ乃信院
三百五の田二百ヶ年乃信院
所一二十ヶ年の成り信院ト号
成り也今乃信院ハ乃信院
右十ヶ年乃信院ハ乃信院
乃信院ト号とあり信院
乃信院ト号とあり信院

南中坊聖徳院

東中教寺

慶長年中此西照寺二代長
云云開山上入り十一世乃系院
上人乃信院ト号とあり信院
乃信院ト号とあり信院
乃信院ト号とあり信院

代に持ち給ふ元祖は自筆の雅
波乃名号とあり吳臨と云々小
菴と申す多りの名号の謂れ拾引
乃ち然一心を乃小志せり毎年
正月廿五日の酉をとり徳人小菴
建しに慶長年中より大徳年迄
康玄といへば流小徳といひしや

女林寺

後醍醐天皇御宇元祖

中小蓮とせり用基桃源和尚經
の小林氏御成の中と細小蓮とい
書し小菴建慶大徳乃女林寺
と表しとけ小女乃字小波乃
名中は紫野大徳寺の院以英
梅院乃末派とて背ハ大徳寺
境内度よりと佐土と上られ
寺門をごとく感女といへば
ありし地町女林寺町といへば
と記するは後秀吉公奉状ま
て右乃菴林といへば此れ上る門の
女町より地と云地小納しに平
乃菴地町中乃地は菴の町
くは女町乃地と云あさりゆ

道けり又は地以轉雲居ふつのと
約権乃古より是は二ありたり

紫陽山

紫陽山妙法寺

海陽妙法寺

末古岡山日英と云あり天正年中
小僧法師來り中興す又寺内小
日義上人乃自筆の石塔と云也
係小石塔乃古よりひといへば
弘通乃海と云く波乃西に目
と書しつら波小ゆと云く消る子
の石塔小なり一岡と七小あり
なりと云今も石塔も一基あり
なりと云ありといへり

紫陽山了亮寺

岡基年代未詳

中古海陽野秀亮のあり興基
乃小左今も自ら來り礼と云は
小岡と云ふも又云ふと轉す中
山上人乃名義乃由義と云あり
善秀法師小附説ふと云小なり
のあり人五百七代正親町院の
と云信作ありと云都ふなり
乃殿も由緒縁と云く上人乃
一枚記録と表集ふあり一板

小伝をせうの傍若秀小傳りて當吉
小をいひて湯作やうやうせんあり
後れたいまでかきあはるすと歎き上
人乃由教小なりし一か或教乃復中
小上人より由尺三人乃由像とあか
見く發見ぬを翌日とくたか
一傍仏像と村味しと若秀小上人
系し去ぬ若秀湯作歎き一とく
勅乃恭發色るるりか一を後七年
終く永保十一年六月廿一日乃るり
そよ志麻乃中を盗すれらるる
來ハ根乃志若小よりしすとや
大勢部りありとくはかきとるる
すんそ若秀あされ果燃海懈
沸して忽り控力とくたかりたか
せんうけりて知く陸喜感歎
一命ふく一かきあはるる
多一かきとて各道麻へぞゆりぬ
柝は仏乃所以の背惠心傍教乃由母
乃若根のあふ強強三ると他り同
千祈乃若密とあき並び小由經と
ふして中若乃由力内ふとあて當

麻吉に納りしとせり小かきとるる
瑞利生乃まらしくあつる勝斗と
くずはさるる一めハ遍思居ありと
を若究文中小若究と改め
又中山三十三世乃上人光昭山と名
付あり

龍岩山祥雲寺

寛永二年小建宣

岡山郡唐和尚宗聖大徳寺乃末
かり檀那ハ若氏正安乃志教に座
小後漢二十株依あり大かこれ
ま丈八尺小及びり後小上人の奇
とす者若成岡堂乃翌日當
塔乃新判史石河去依若勝正信志
とく切實徳とのべ和尚一首と紙
てこれと矯らる

自ら家の武安庵の雨小若びと嚴かこ
澤宮和尚和顔 延奇

徳出和奇發徳也 此堂新古言橋塔
秋甚三又秋中月 花又八重花一
々小社の垂若きも光すはとこれとこれ

長谷寺

和皇武天皇天平勝寛

年中に造り岡山の徒道上人方り

天皇聖后乃復とて大和西長谷
寺と建立乃ちまゝと人小僧一
團く小新長谷寺と建立しつ小僧
ちんを完中一人なりと記保小僧

東光寺

元平年中小建立
開基の記類乃ち平そのの兼師如來
かりに新長谷海中小光のれ出取と
見とてとかり郷風おろしてはる徳
と治治りこふおとてはと生立也
るとちや世人演乃ち兼師と云これかり

西光寺

昔乃開基の記類
乃乃去去と人かり天正年中小僧
蓮社寂空上人中興と云そのの兼元大
師乃ち子寛中彼をれ他と兼小兼師
必るのま日仏師 由去三尺二寸の座像
かりえ其の奈る兼師乃由去中まより
と永保年中小僧ちた安通寺海陽
智恩院乃末也

長寺

元龜年中小僧好周
寺海陽檀那とて高僧小地と承り
兼長と絶す海西粟光のり
より取ると人と徳傳して開山住持と

開山本成寺

かゝる上人の天正元年正月六日不慮
にまゝす政勝の元永八年辛未
十二月十日小僧死す別當ちん蘇方法
名長谷寺殿前開山賢通乃三舎
ちと号す今中興り三好氏より承りこれ
ありはち中興り知恩院乃末也
開山の目録上人かり海陽本法と云
ちと開基一本乃ち中法と云り七
年におふふと云ふ兼師す終れた中
法と云乃恩恩と云と人立世に度
乃時法乃おふれ命と云とす熱影
弘通と云り後花院中守お軍
兼之乃法兼おふい樹お樹せれく
火乃兼と云け熱法乃備と云ふ兼り
終ひのうたそり毫末も換せず全
終ひのうたそり毫末も換せず全
乃の兼と云感と云世俗小僧上人と
中あり兼お兼代乃後傳と云り
くけり山城乃法中法と云乃不
そり兼と云と云り

とありて和泉府にあり

天井前橋

此橋ハ海と引合橋
と云く髪乃と引合と云く引合と云く
と云く引合と云く引合と云く

徳木履

今所乃木履と上
品と云く引合と云く引合と云く

香踏

香踏乃品と云く引合と云く
履切と云く引合と云く引合と云く
茶湯乃内香踏入乃引合と云く

神松丸

白乃品神松丸乃
田記と云く引合と云く引合と云く

鬼煎餅

海と云く引合と云く引合と云く
引合と云く引合と云く引合と云く
引合と云く引合と云く引合と云く

紅茶豆腐

此名ハ堺乃橋綱小
と云く引合と云く引合と云く

赤鯉

後吉大此種乃社乃
引合と云く引合と云く引合と云く

手枕

引合と云く引合と云く引合と云く
引合と云く引合と云く引合と云く

橋糸紡

引合と云く引合と云く引合と云く
引合と云く引合と云く引合と云く

金杖

引合と云く引合と云く引合と云く
引合と云く引合と云く引合と云く

標善度

世乃品標善度と云く
引合と云く引合と云く引合と云く

あくま後尾羽ふく下殿戸中く米
入と燻又停勢あくも燻一右を孔中
乃名のしりくま慶と右付根中一人
米湯名物元ふりくんくろり乃又
ま慶との後田新くま名入乃入るを
ふり名かりしなり

南竹茶抄

中八利林り傳史

是古田藏殿以ころん九と慶多り
武町台院殿一色白雲してゆ系物と
秋と今に子孫南竹と稱しこれ色

一節節用

一節一節傳しなり

出作強

云非久強とより

天正の山の石屋を子と海屋あま
金平友兵衛物造元起の寛永年中
小系松小極住す

新具所西吹

生國宗元皇孫乃

任人中氏と表補の三子と利休小波
く流小波す生國小波のちなりやと
三子孫慶勝慶音慶安慶殿

雜契唐木細工

雜契唐木細工

生國八紀列雜契の任人考後考と
云信入信人のち南津と互夜して
唐木細工の名考と終せりともから
唐木細工の考とより

加契口節

慶長年中此刀能治

形は三代小して書と終

角塩

焼ての考れしなり

かきりたる塩よりけしれ何系焼ゆて
法方におりひく又れなりしなり

漆壺焼塩

今此壺塩を先祖ハ

後若師とて先師上鴨島枝村の人なり
右(瓶丸交乃末孫と)より天文年中に
南津漆村より名を傳しして紀列り雜
契塩と求り壺に入て焼てし名を孫
法由(南賣)一世に廣く用る由(此今より
も子孫お授す)後甲午に女院御取立
天下一乃(天号)と及裁す又延寶七年此
比考目録より形似城なり名傳城と考す

其外古来し名物

天川香子紙

大多長履 袴 袴 袴

上村箕

高尾節

畠田下新

貝塚麦粉

岩屋源

新田文兼粉

和泉園寺唐合七百貳拾八ヶ寺

同大小社合九百八社

村敷合三百八拾ヶヶ村

按北石高拾六万三千二百貳拾五ヶ合

浮目浦々

坊より岩川まで

石津浦

浪子

助松

大津浦

岩和田中城下

小所 更本所 坊所 中町 吉町

貝塚浦

新田

坊中添村

新田 新田

かぼち

吾見

畠田

尾崎

取持

新村

波子

若紀村

浪持浦

岩川

大坂より岩川(京町の藤原の町)まで

坊大小坊より

岩川大石紀列坊より拾一里下岩田

岩川(京町)より一里海江流

紀列加向、二里

紀列回送、二十里

同和泉浦、八里

坊、拾二里

浪持由良、六里

浪持次郎、六里

同 岩倉、拾五里

大崎、拾六里

岩和田(京町)一里

福野、二里

坊、二里半

左邊、九里

右邊、拾里

少新、拾五里

寺尾、七里

一ノ宮、九里

内原、十三里

浪持若原

大坂、六里半

坊より紀列(京町)

大小坊より大崎、二里

大崎より和泉、七里

岩田より貝塚

貝塚より浪持、七里

浪持より坊中

坊中より浪持、七里

浪持より京町

京町より浪持、七里

同浪持

貝塚より浪持

浪持より京町

福野より下村

下村より福野

岩田より岩川

岩川より紀列

和泉園以上

和泉園以上

和泉國終

天保十年己亥十月改正

心齋橋通唐物町

大坂書林 河内屋太助

右之板行万一打遠
板元迄以知

國花分明集和泉國終

47937



